科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名<英訳>	ILASセミナー：中国を地理学から考えるILAS Seminar :Introductory Seminar - Thinking China from a geographical perspective			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　小島　泰雄		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	受講定員(1回生定員)	15 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	人間・環境学研究科棟４３７／地図演習室			使用言語	日本語
キーワード	人文地理学 / 地域研究 / 中国						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

テーマ：地域を共感的に理解する―中国をフィールドとして―

　地域は多様で重層的です。その多様性は、近代には地理教育として学びの対象に据えられました。そしてグローバル化が進展する現在、世界はフラット化するという楽観論とは裏腹に、地域の持つ意味、そして地域を理解する必要性はむしろ増大しています。地理学とくに地域地理学は地域を調べ、考え、そして伝えることに取り組んできましたが、この授業では、地理学の基本的な方法をめぐって、中国をフィールドとして、作業とディスカッションを軸としたゼミナールを行います。それを通して海外の地域に関する「共感的理解」とは何か、どうやって共感的理解にたどり着くことのか、を考えてゆきます。

[到達目標]

・地域を考える地理学の基本的な方法を習得する。
・中国に対する理解を深める。
・ディスカッションする力、プレゼンテーションする力をつける。

[授業計画と内容]

ゼミナール形式で、授業は進められます。毎回提示される課題に関して、資料の収集や分析といった作業、および口頭発表とそれをめぐるディスカッションを行います。受講生には中国に関する自らの興味関心に基づいてテーマを設定し、その問いを解明してゆくことが求められます。
演習のテーマは下の通りです。１テーマあたり１～２回の授業日をあてる予定です。授業回数は15回で、最終回はフィードバックです。

（１）「共感的理解」をめぐるディスカッション
（２）自ら設定したテーマの本を図書館で探す
（３）テーマに関連する新聞記事を探し紹介する
（４）「隣の中国」についてディスカッション
（５）中国を統計を使って考える
（６）統計データを用いて地図を描く
（７）主題図を用いて考える
（８）「基本的事項」について報告する
（９）中国を体験する
（１０）学術論文を利用する
（１１）自ら設定したテーマについて発表する
（１２）総合討論とレポートの提出

ILASセミナー：中国を地理学から考える(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：中国を地理学から考える(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価。
討論への積極的な参加（およそ50%）と作業・発表・レポートの内容（およそ50%）によって、総合的に評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
国家統計局編 『中国統計年鑑』（中国統計出版社）（中国語と英語で書かれた、中国の現状を知るための基本的な統計書。図書館で閲覧。）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業で課題が提示されるので、次回授業までにそれに取り組むことになります。また、授業の最終段階では、口頭発表とそれをもとに簡明なレポートをまとめることになりますので、中国に関して何をテーマとするか自ら考えてゆくことが求められます。

[その他（オフィスアワー等）]

ゼミナール形式で行うことから、毎回出席できることを前提とします。それは、自らの作業・発表だけでなく、他の受講生の作業を見たり、発表を聞いて討論することが、ゼミナールの重要な過程となるからです。

[主要授業科目（学部・学科名）]